

## 縁日のある病院

名古屋駅から豊橋行き各駅停車で7つめに、南大高という新駅があります。もともとは丘陵地で、駅前には日本最大のイオンモールができ、新しい街が開けています。その一角に南医療生協病院という病院があります。過去にも何回かお訪ねしたことのある病院ですが、行くたびに驚くことに出会います。

南医療生協は、医療と福祉を活動分野とする生活協同組合。組織の理念が「みんな違って、みんないい」とされています。日本の組織で、異質性を大事にすることを宣言する組織は、あまり多くありません。最初にこれに驚きます。

次に驚くのは、院内に入ると目にする、病院とジムの2つの建物が吹き抜けロビーの空中回廊で結ばれている光景です。病気と健康を行ったり来たりするという健康観が表現されているのでしょうか。あるいは、病気と健康が連続線上にあることを象徴しているのかもしれない。しかも、ジムには卓球台が置いてあり、中学生らしき子どもが近所のおじさんらしき人と一緒に、卓球を楽しんでいます。ロビーも、通勤者が通路代わりに使っています。その結果、病院らしい静かな雰囲気がまったく感じられません。

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲出店で賑わう南医療生協病院（撮影 南医療生協 中村氏）

病院玄関の前には、数軒の店舗と保育園があります。野菜や自然食品の店、パン屋さんに料理教室。うわさではパン屋さんの評判がよく、買いに来たお客さんは、そこが病院の一角であることを知らない方もおられるとか。賑わいがあります。

今回訪ねたときには、たまたまイベントが行われていました。玄関前のスペースにテントが並び、お豆腐の店、お灸の店、アクセサリーの店など20店舗くらいが並びます。しかも一角ではコンサートも行われています。それも金管楽器のソロが。

そのお店に、車いすの方やパジャマ姿の方が来店されますから、入院者とイベントを楽しむ方がごちゃ混ぜ。静かな病院というイメージはありません。

みんな違ってみんないい、みんな出会って楽しもう。前回述べたジェイコブスの街づくりの考え方に通じる、人のご縁を結ぶ空間が作り上げられていること、縁日という言葉は、人のご縁を結ぶ日であることを実感した次第です。

（MBO 実践支援センター代表）